

令和2年度  
外国人教員短期招へいプログラム実施報告書

令和 3年 3月 5日

三重大学長 殿

招へい期間における実施報告書を、添付のとおり提出いたします。

1. 被招へい者 所属・氏名 韓国東義大学校ホテル・コンベンション経営学科教授 劉亨淑
2. 受入研究者 所属・職・氏名 人文学部・教授・塚本明
3. 招へい期間 令和 2年 11月 29日 ~ 令和 3年 3月 3日
4. 活動実施の内容とその成果 [教育活動] ・1月26日 吉村真衣助教担当の「特殊講義 海女からみる現代社会」にゲスト講師として「釜山の海女の現状」と題して講義。 ・2月3日、6日 塚本明・吉村真衣「特殊講義 海女漁村の祭礼行事の調査と発信」に参加、鳥羽市石鏡町で町内巡見や住民の聞き取り調査を、学生を指導しつつ行う。 [社会活動] ・1月9日 海の博物館で海女学講座第4回担当（「日本と韓国の海女観光比較」）。 ・2月6日 海の博物館にて、海女研究センターの紹介動画制作に協力（出演）。 [研究・調査活動] ・12月19日 海女学講座第3回（海女研究集会）に出席、質疑応答に参加。 ・12月20日 人類学研究者ら（前日の研究会参加者）とともに志摩漁村を巡見。 ・1月12日 ミキモト真珠島真珠博物館にて柴原昇氏から観光海女について聞き取り。 ・1月14日 鳥羽市観光協会で鳥羽市の海女観光の取り組みについて調査（鳥羽市観光課・村田直氏、観光協会常務理事・世古晃文氏から聞き取り） ・1月15日 鳥羽市石鏡町で、「海女とアーティスト」事業に参加、アーティスト稲垣美侑さんの作品制作に参画する。 ・2月4日 女子美術大学准教授リンダ・デニス氏を訪ね、海女アートについて調査。 ・2月6日 海の博物館にて答志島の宮司橋本好史氏と面談、明治期の朝鮮出漁に関する資料を得る。 ・2月12日 鳥羽市相差町海女文化運営協議会の小崎則彦さんに地域連携DMOについて聞き取り調査。 ・2月16日 鳥羽市石鏡町のかづきおり行事に参加。地域おこし協力隊を取材。 ・2月17日 海の博物館石原真伊事務局長と志摩市越賀の海女白坂みち代さんを訪問、海女ブランドの海藻「海女もん」について調査。その後、甲賀の男海士の石神さんから聞き取り。 ・2月18日 志摩市の観光ガイドの瀧夫妻の案内で越賀の海女の林さんから聞き取り、次いで波切の海女小屋で浜口花雪、高橋美佳、谷口千代の3人の海女から話を聞く。男海士の増加に伴う問題点などについて取材。 ・2月25日 三重水産協議会で畔志賀漁師塾について取材。 *以上のほか、随時塚本教授、吉村助教らと議論、情報交換を行った。

〔成果〕

韓国東義大学校韓日海女研究所と三重大学海女研究センターとの間で交わした、友好協力協定に基づく共同研究として取り組んだ。

日本と韓国での海女観光の違いについて、多くの知見を得た。韓国では基本的に観光客を呼び、経済振興のための観光事業であるが、鳥羽・志摩での取り組みは、まず海女漁を大事にするための事業であり、経済的な目的を持つのは観光海女小屋での体験くらいである。他は海女文化を社会に広く知らせるための活動として行われている。その成果が日本遺産となったと思われる。修学旅行生などを対象に鳥羽市観光協会が始めた出張海女トーク事業は、これから可能性のある取り組みであろう。

また、歴史的に鳥羽・志摩と釜山との間に、海女を通じた深いつながりがあったことに関心を持った。加えて、韓国にはほぼ存在しない男海士が海女たちに与えているストレスも、海女文化の存続のために大きな課題であると認識した。

当初の予定に比し半分以下の期間となり、コロナの影響で自由な調査活動は制限されたが、海女漁村の祭礼行事を見学し、また鳥羽・志摩の海女や海女観光に関わる多くの人たちにインタビュー取材をできたことが収穫であった。成果は今後、論文・著書等にまとめていく予定である。



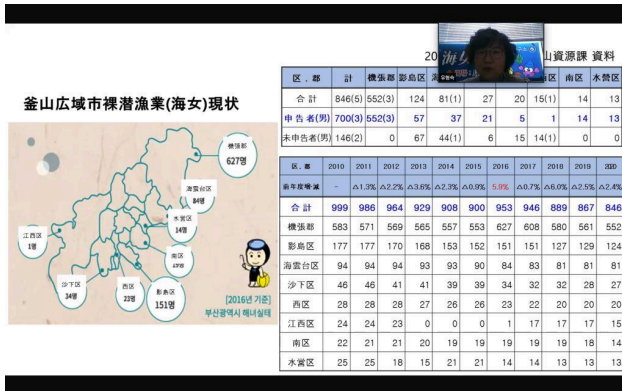
海女学講座第4回講師担当（1月9日）



海女学講座第4回講師担当（1月9日）



海女研究集会に参加（12月19日）



特殊講義「海女からみる現代社会」ゲスト講師(1月26日)



鳥羽市石鏡町の「海女とアーティスト」事業で作品制作に参画(1月15日)



鳥羽市石鏡町で学生たちと共にワークショップ(海女への聞き取り)に参加(2月3日)



志摩市観光海女小屋調査(2月)



志摩市男海士の聞き取り(2月18日)



志摩市越賀海女の聞き取り(2月17日)



志摩市波切海女聞き取り(2月18日)



志摩市越賀海女聞き取り(2月17日)